

春-5 ごみを減らそう

1. 活動の目的

- ①「もったいない」をキーワードに、エコ生活について考える。
- ②吹田市のごみの分別ルールを知る。
- ③電話で問い合わせができる。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

- ・A4サイズの紙5枚
- ・サインペン
- ☆ごみの分け方12種類分別のポスター
- ☆吹田市 市内のごみ収集日一覧
- ☆ごみ分別クイズ用品物カード(2セット)
- ・A4サイズの紙2枚

3. 活動の手順

発: 発展的活動 **留**: 留意点 **参**: 参考

活動1

- ・まず、「もったいない」の意味を知っているか、聞いてみる。知っている学習者がいたら、「もったいない」の例を言ってもらおうとよい。
- ・次に、林さんの話を読んで「もったいない」の意味を確認する。

参 ケニア出身のワンガリ・マータイさんが提唱した「MOTTAINAI」は「KARAOKE」と同じように世界共通語になっており、環境問題を考える重要な概念になっている。

- ・もったいないと思うものを各自テキストに書いてもらう。

留 テキストには考えやすいように5つの項目を示してあるが、厳密に分ける必要はない。また、書いてもらうのは考える時間を取るのが目的なので文章で書かなくても「紙のおてふき」などメモ形式でよい。学習者にもそのように言う。

A4の紙5枚
サインペン

- ・テキストに書いた「もったいないもの」を発表してもらう。ボランティアはそれを5つの項目に分けて紙に書く。
- ・書かれたものの中からグループで話し合っ、もったいないものベスト5を選ぶ。
- ・もったいないものベスト5を改善するアイデアをみんなで考える。
- ・出てきたアイデアの中から自分が実行しようと思うことを3つテキストに書く。

留 時間の余裕があれば、ベスト5以外の事柄についても話し合おうとよい。

活動2

市内のごみ収集日一覧

ごみ分別クイズ

ごみ分別
品物カード
A4の紙2枚

ごみの分け方
12種類別の
ポスター

活動3

- ・ごみの収集日を聞く前に、吹田のごみ分別の方法とそれぞれのごみの種類を知っているか確認する。テキストの①～⑤の言い方を覚えてもらうようにする。

留

- ・ごみの分別収集の方法は市町村によって異なる。学習者の中に吹田市以外に住んでいる学習者がいたら、その地域の分別収集について話してもらう。
- ・自分の地域のごみ収集日を知らない学習者がいたら、ボランティアが「市内のごみ収集日一覧」を見て教え、テキストに書いてもらう。

- ・まず、グループでクイズをし、そのあとテキストに答えを書く。

手順は以下の通り

- ①グループを2組に分け、それぞれに品物カードとA4サイズの紙1枚を配る。

紙は右図のように線を引いてごみの種類を書く。

①燃焼ごみ	②資源ごみ
③大型複雑ごみ	④小型複雑ごみ ⑤有害危険ごみ

- ②それぞれのグループで品物カードがどの種類のごみか相談し、①の紙の上に置いていく。

- ③2組の結果を比べる。異なるところがあれば、「ごみの分け方12種類別のポスター」を見て、訂正する。

- ④テキストに答えを書く。

- a. (2) b. (3) c. (1) d. (1) e. (4) f. (2) g. (3) h. (2)
i. (5) j. (4) k. (1) l. (5)

- ・「市役所の人」はボランティアがやる。
- ・「布団」を他のものに置き変えて練習する。

留

市役所の部署名（資源環境室事業課）は変わることがあるので事前に確認すること

発

よくできる学習者の場合は、ごみを出す日（日時、曜日）を学習者に尋ねさせたり、ボランティアが出すときの注意を言って聞き取らせたりするとよい。

注意事項の例

不用品と張り紙して出してください。（大型複雑ごみ）

ひもで十字に束ねてください。（雑誌など）

紙に包んで出してください。（有害危険ごみ）

参

絵本「もったいないばあさん」（真珠まりこ著）

楽しくわかりやすい内容なので、活動のまとめとして、あるいは活動の導入として使える。